

第1回 西湘バイパス構造物崩落に関する調査検討委員会資料

応急復旧と道路管理の方法について

平成19年9月17日

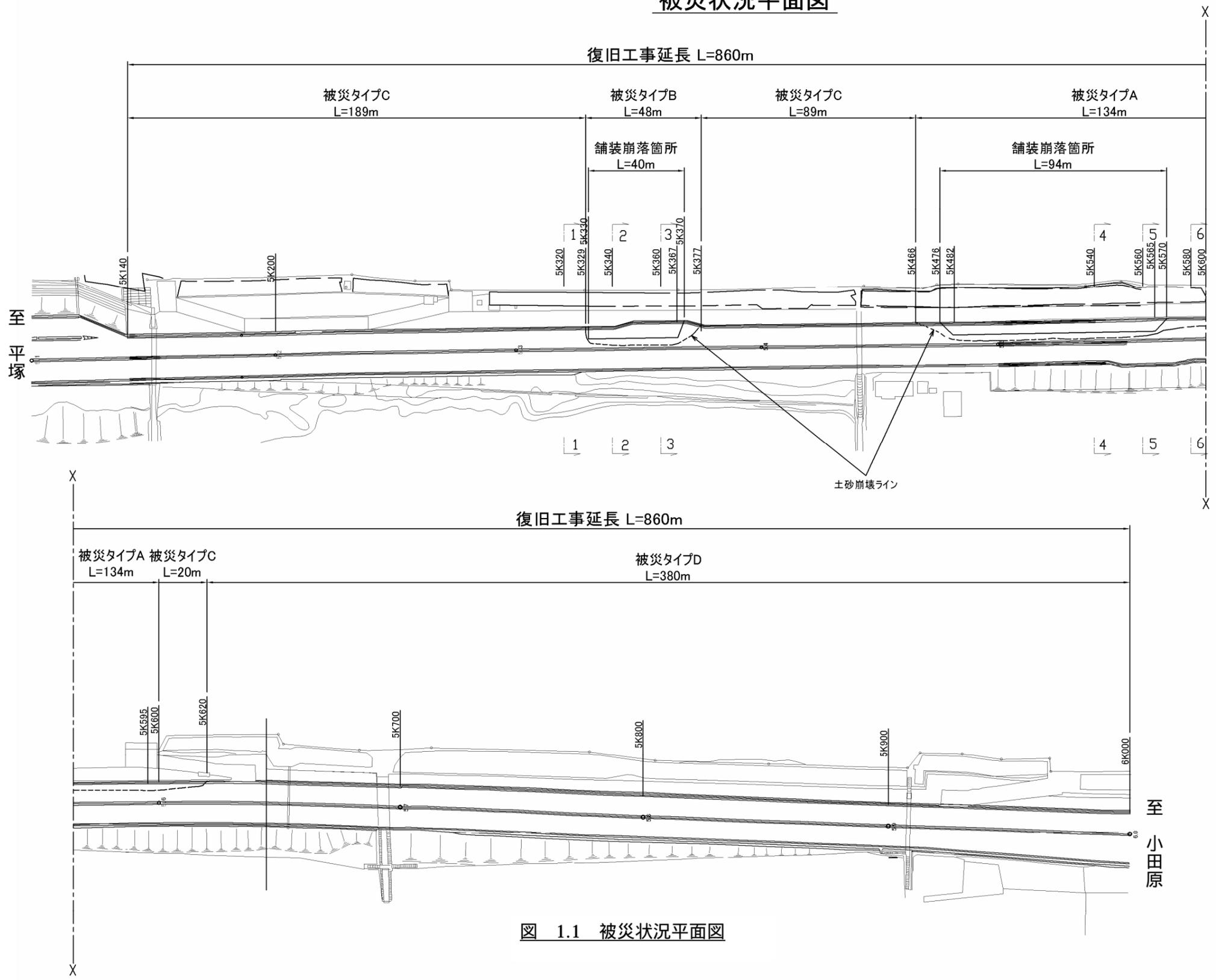
国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所

§ 1 現況調査結果

1 - 1 現地測量結果に基づく被災状況

図 - 1.2 , 1.3 , 1.4 に示す測量結果を踏まえ、被災程度を分類を下図のとおりとした。

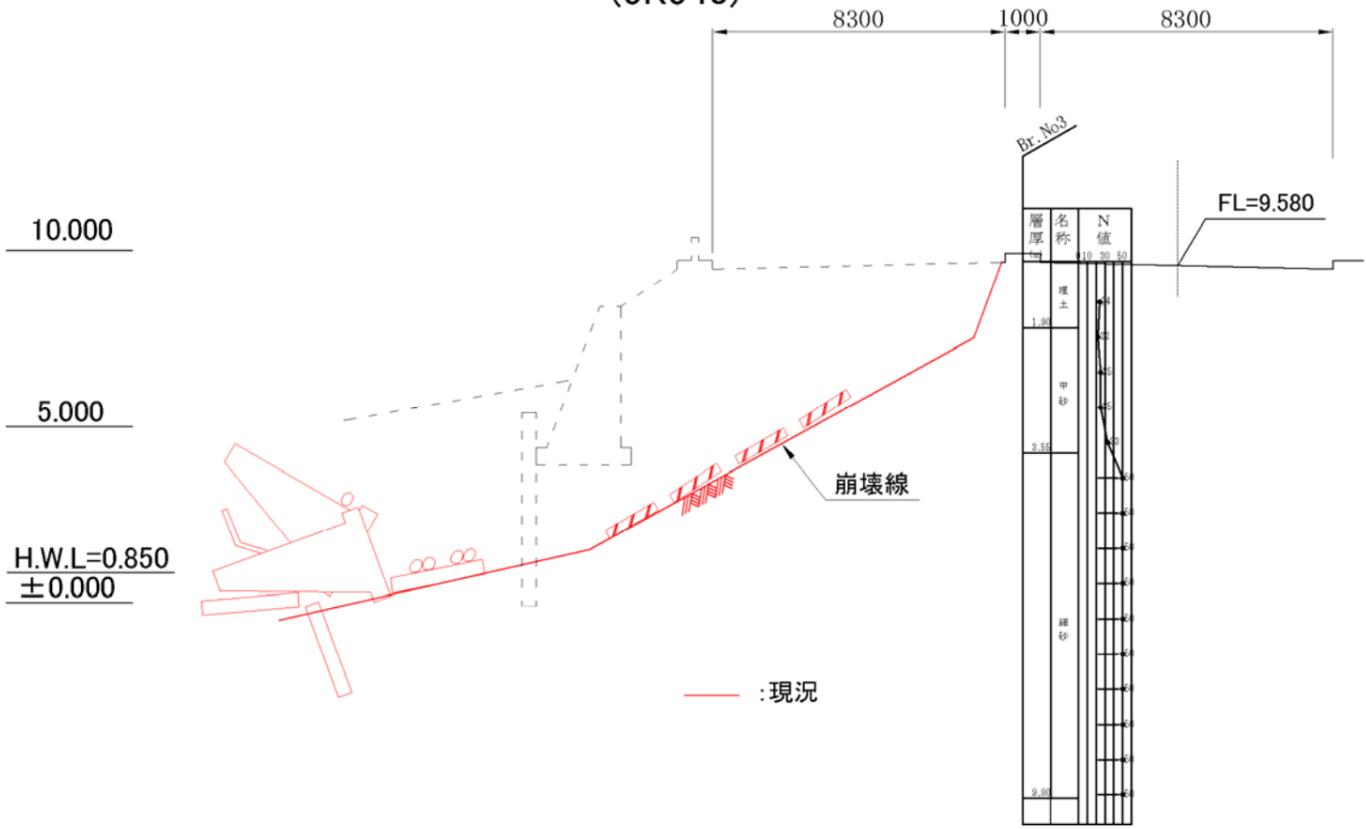
被災状況平面図



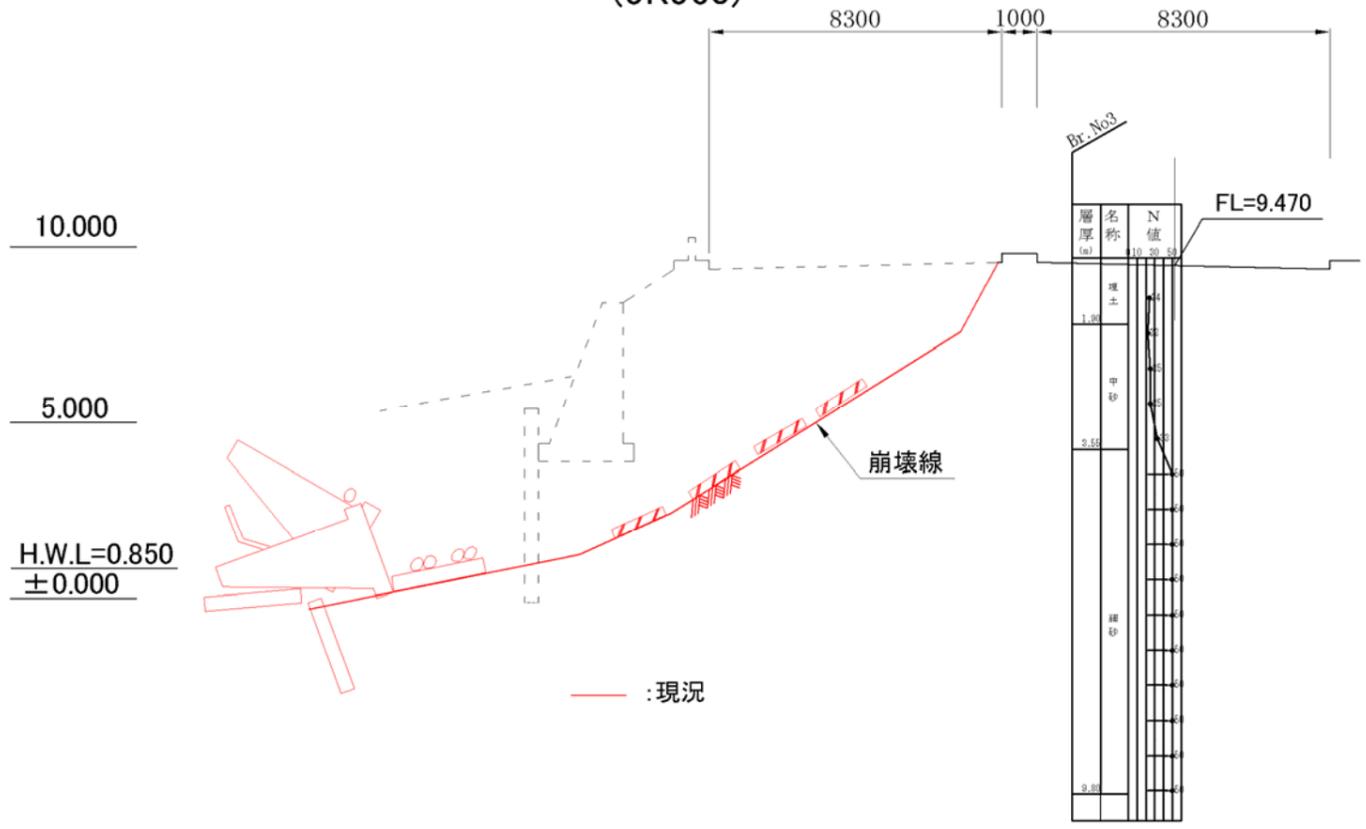
タイプ	被災状況	範囲	延長
A	中央分離帯から下り線側全ての盛土が崩壊している。	・ 5k466m ~ 5k600m	134m
B	下り線中心付近から海側の盛土が崩壊している。	・ 5k329m ~ 5k377m	48m
C	下り線法肩付近から海側の盛土が崩壊している。	・ 5k140 ~ 5k329 ・ 5k377 ~ 5k466 ・ 5k600 ~ 5k620	298m
D	下り線法肩付近から海側の盛土が崩壊している。重力擁壁は完全に壊れていない。	5k620 ~ 6k000	380m

図 1.1 被災状況平面図

4-4断面
(5K540)



5-5断面
(5K560)



6-6断面
(5K580)

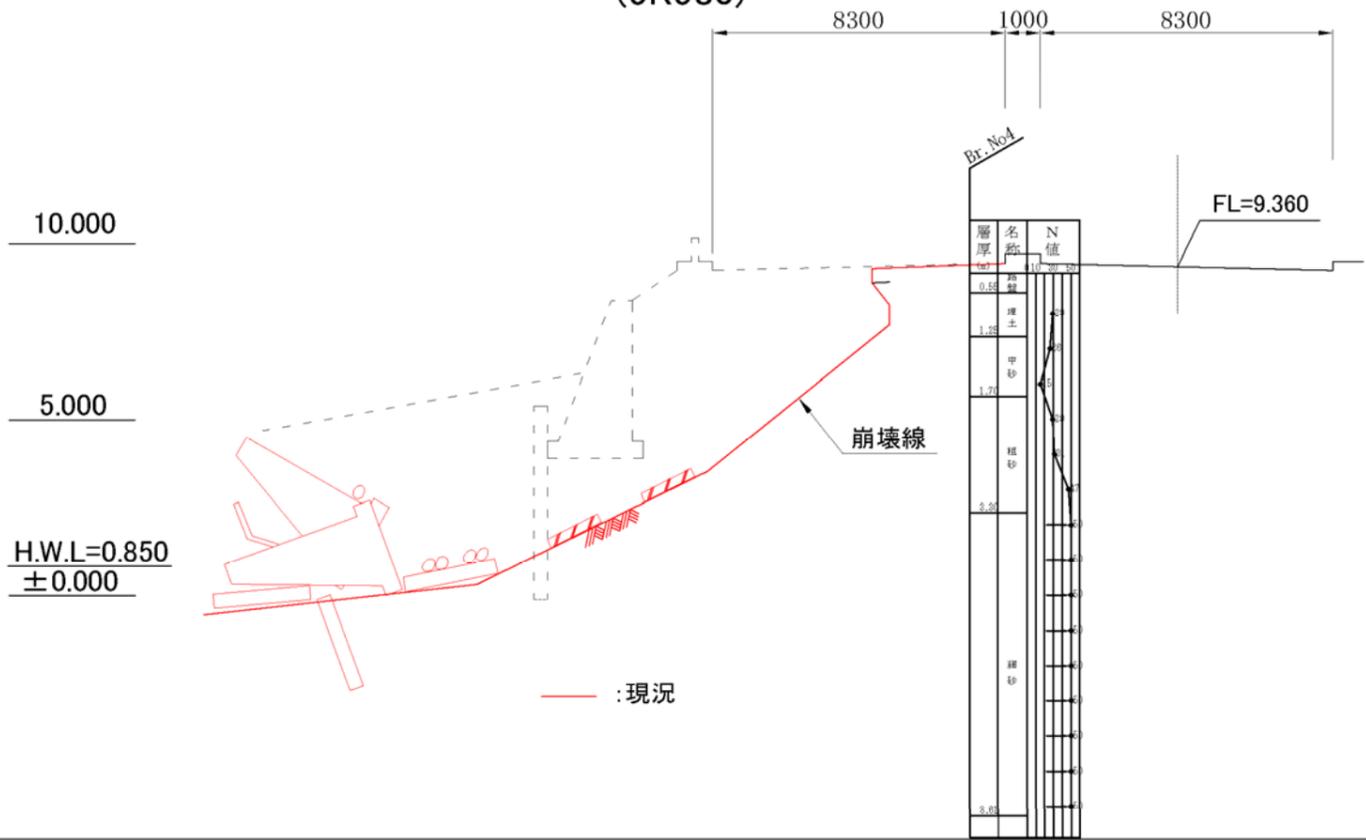
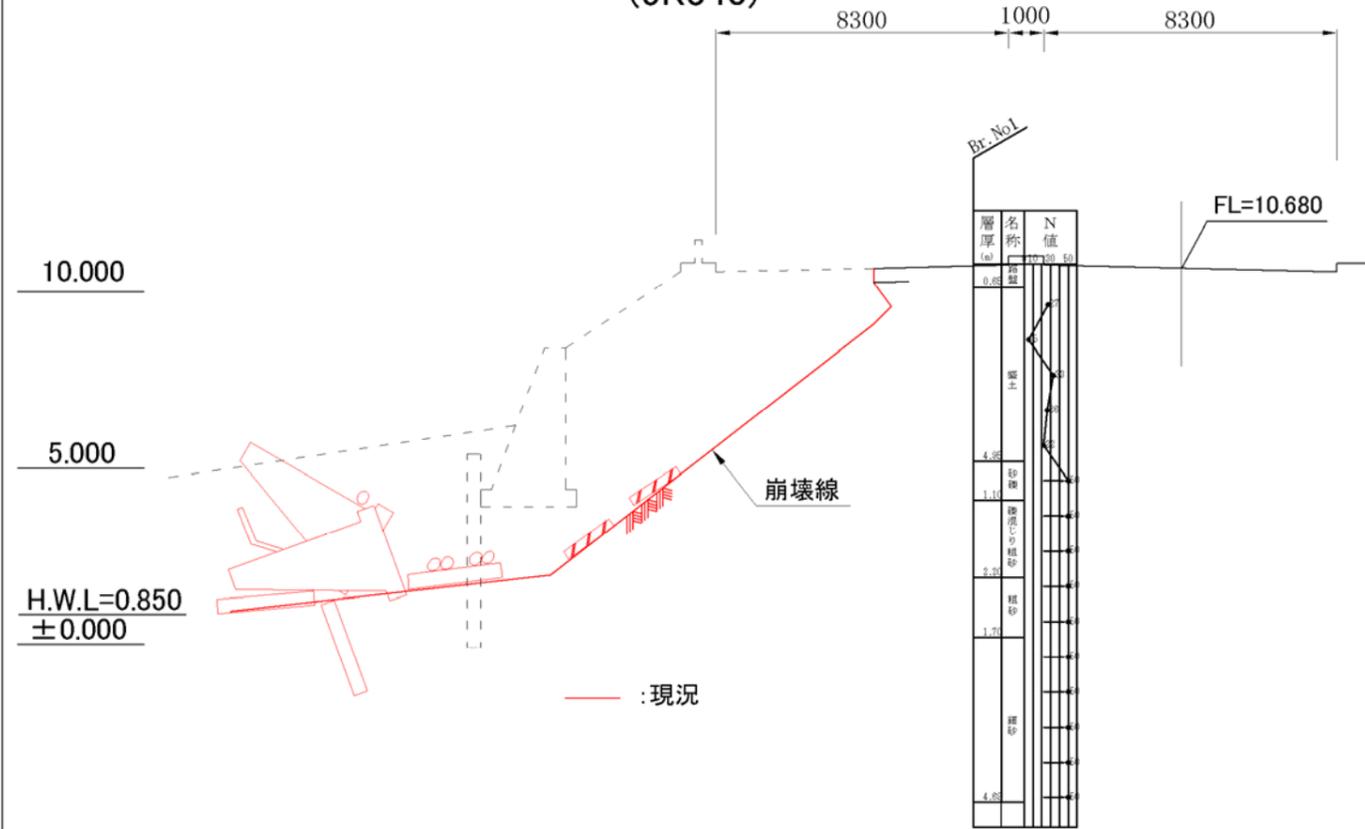


図-1.2 被災状況断面図 (被災タイプA)

2-2断面
(5K340)



3-3断面
(5K360)

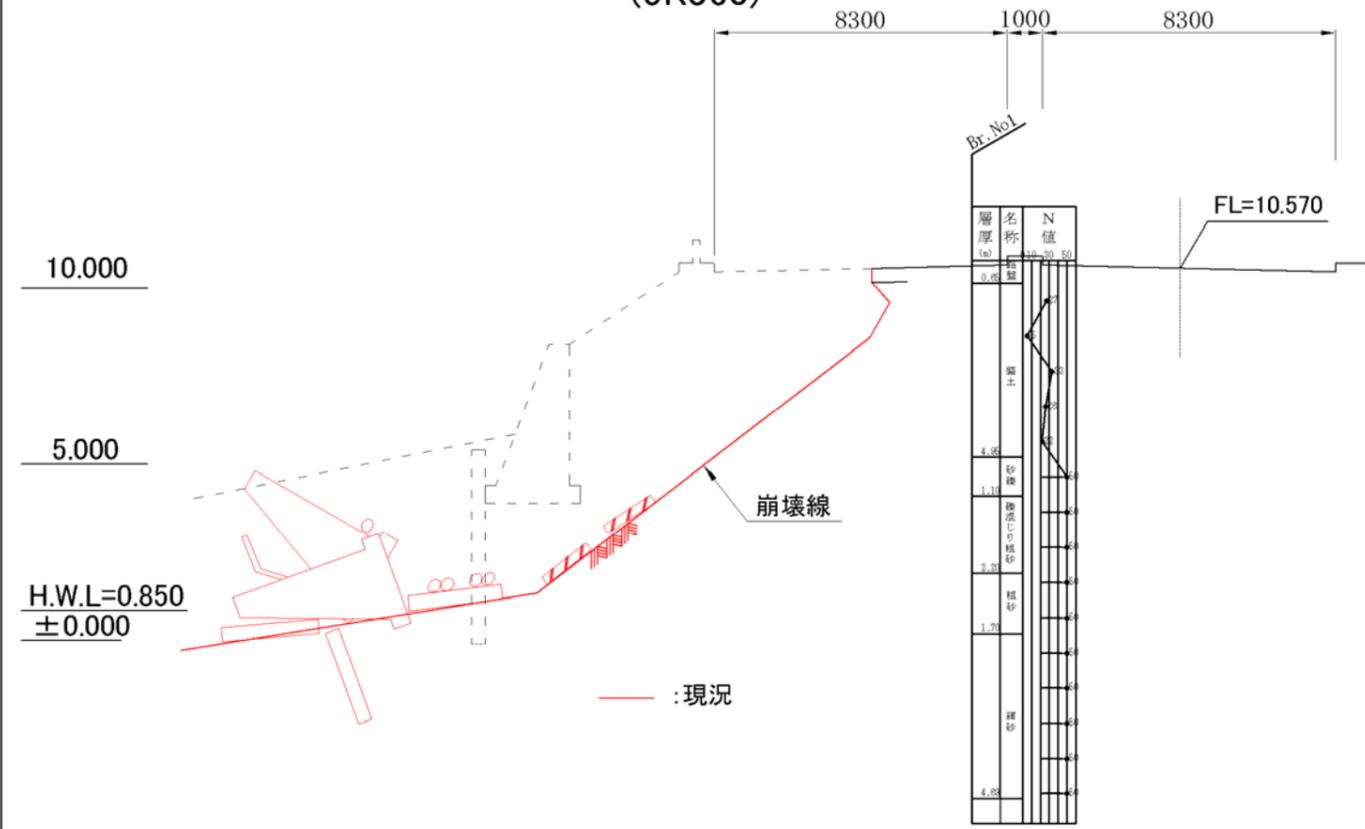


図-1.3 被災状況断面図 (被災タイプB)

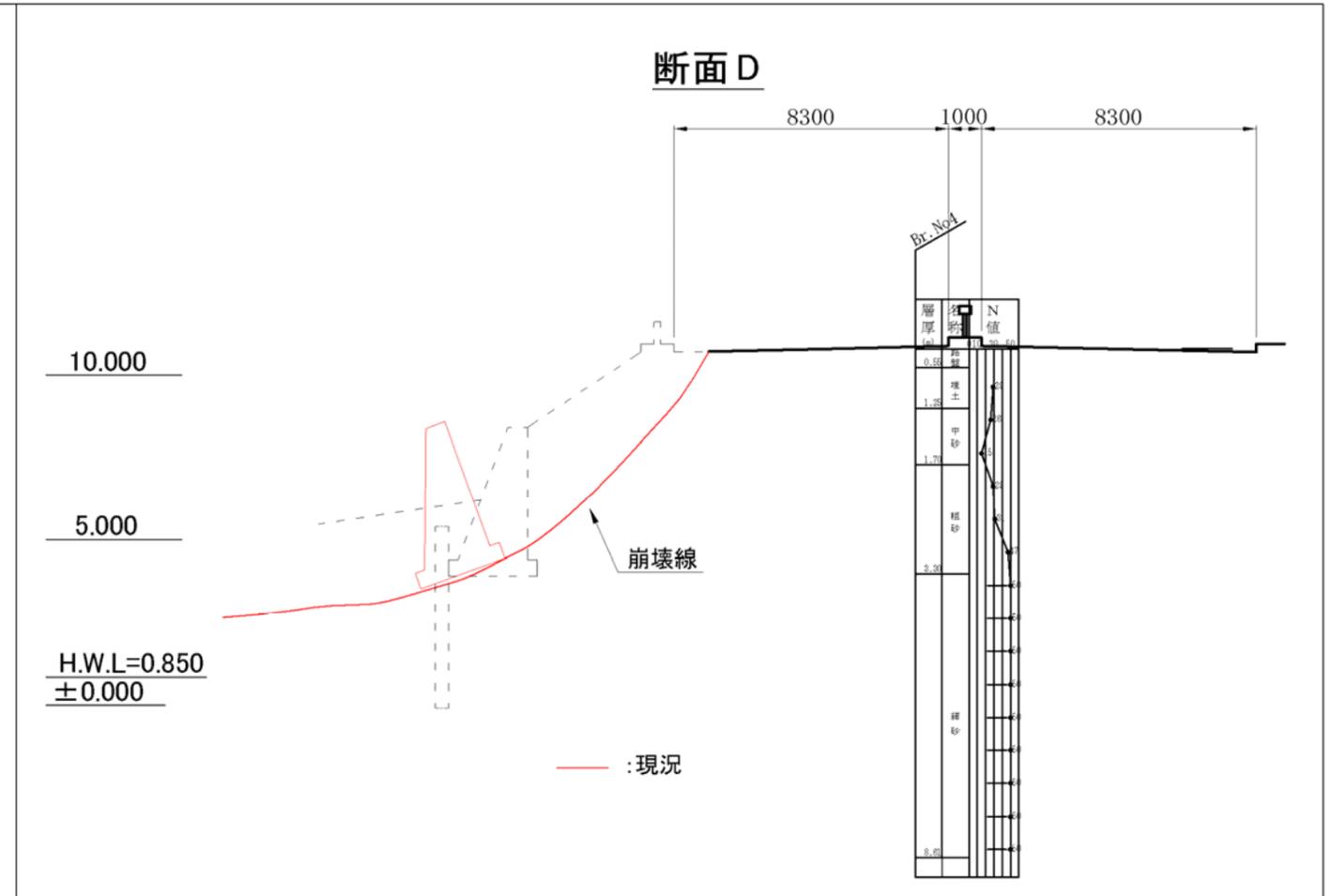
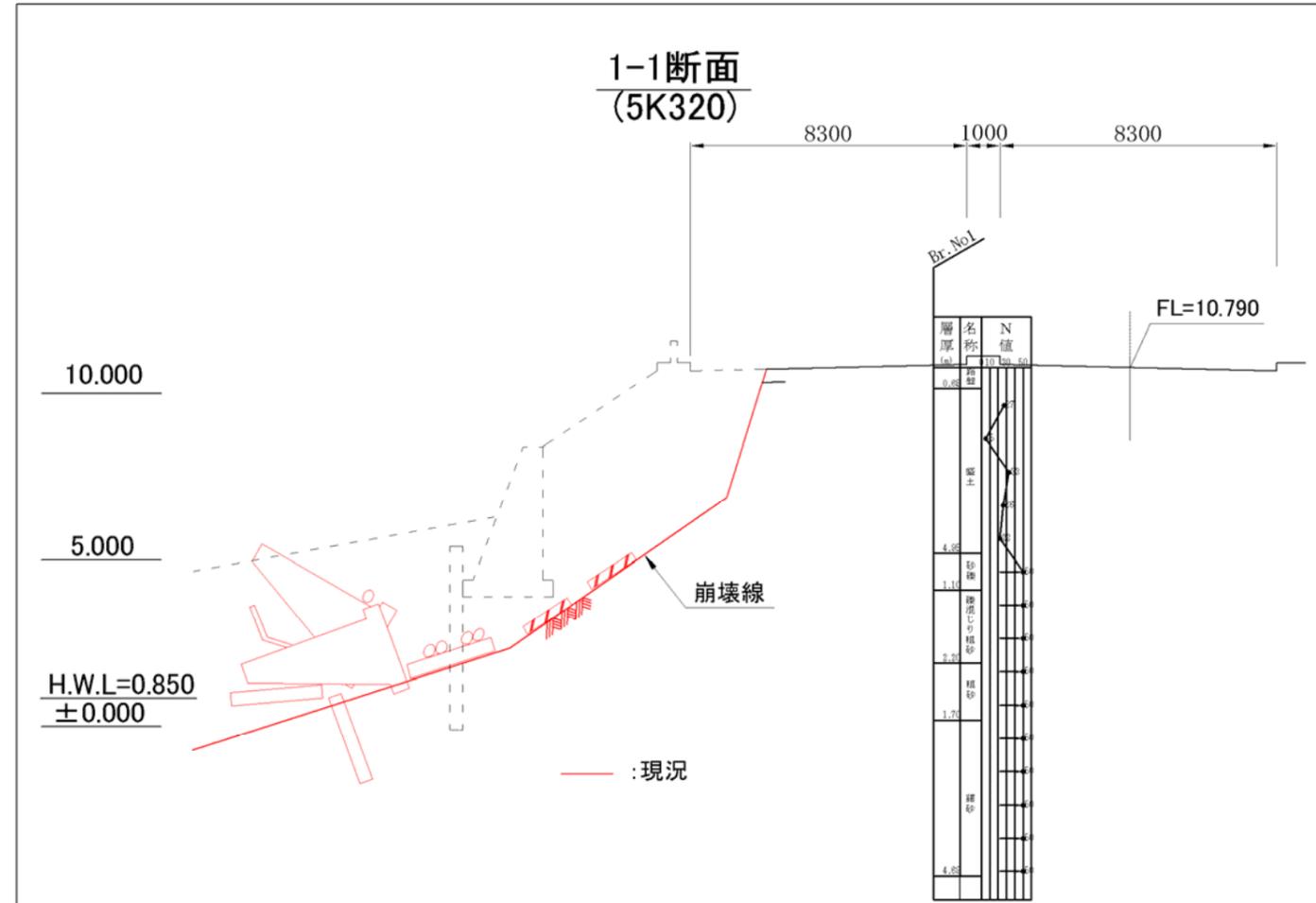


図-1.4 被災状況断面図 (被災タイプCおよびD)

1 - 2 土質調査結果

現地にて実施したボーリング調査結果による推定土層縦断図を図-1.5 に示す。

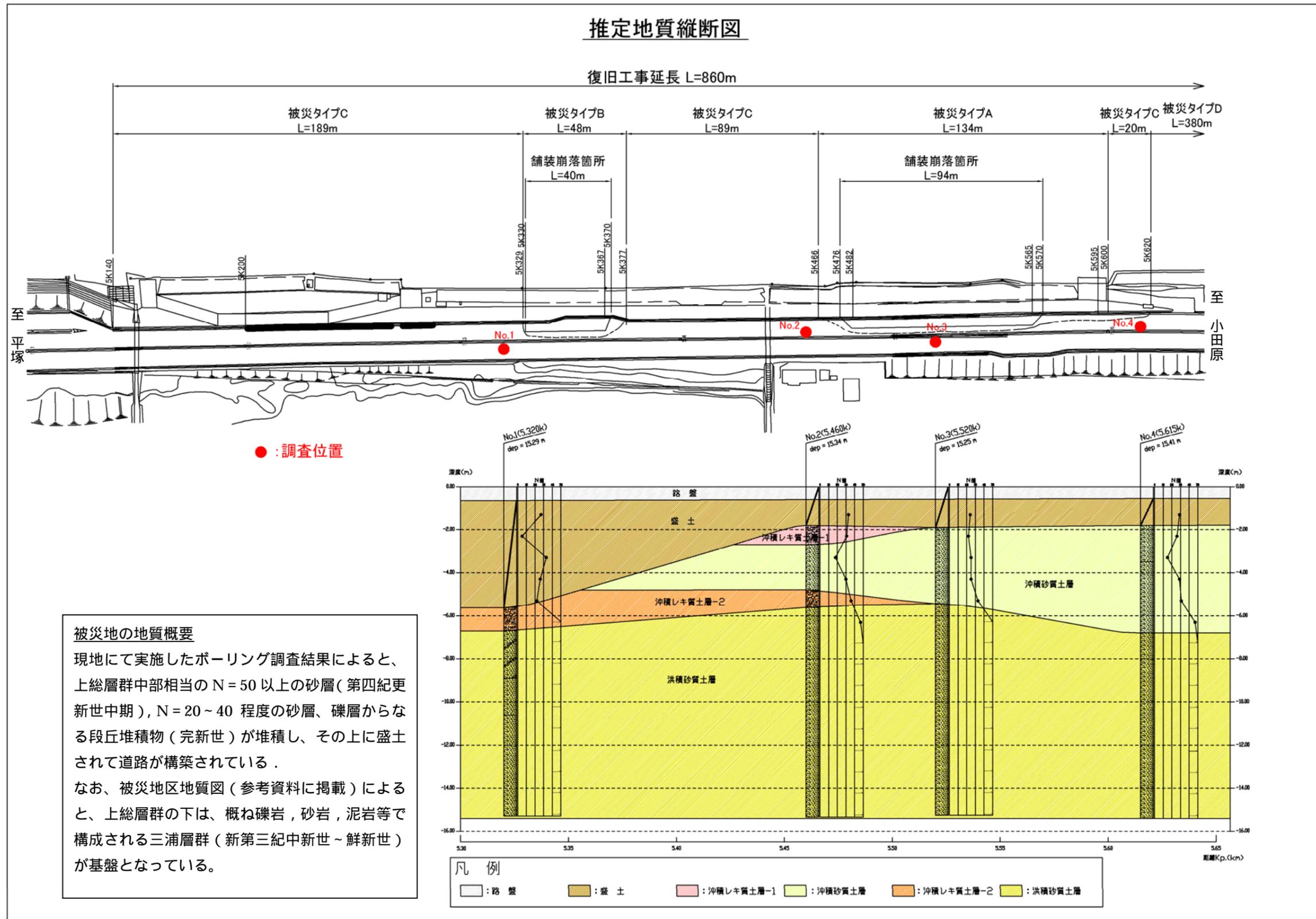


図-1.5 推定地層縦断図

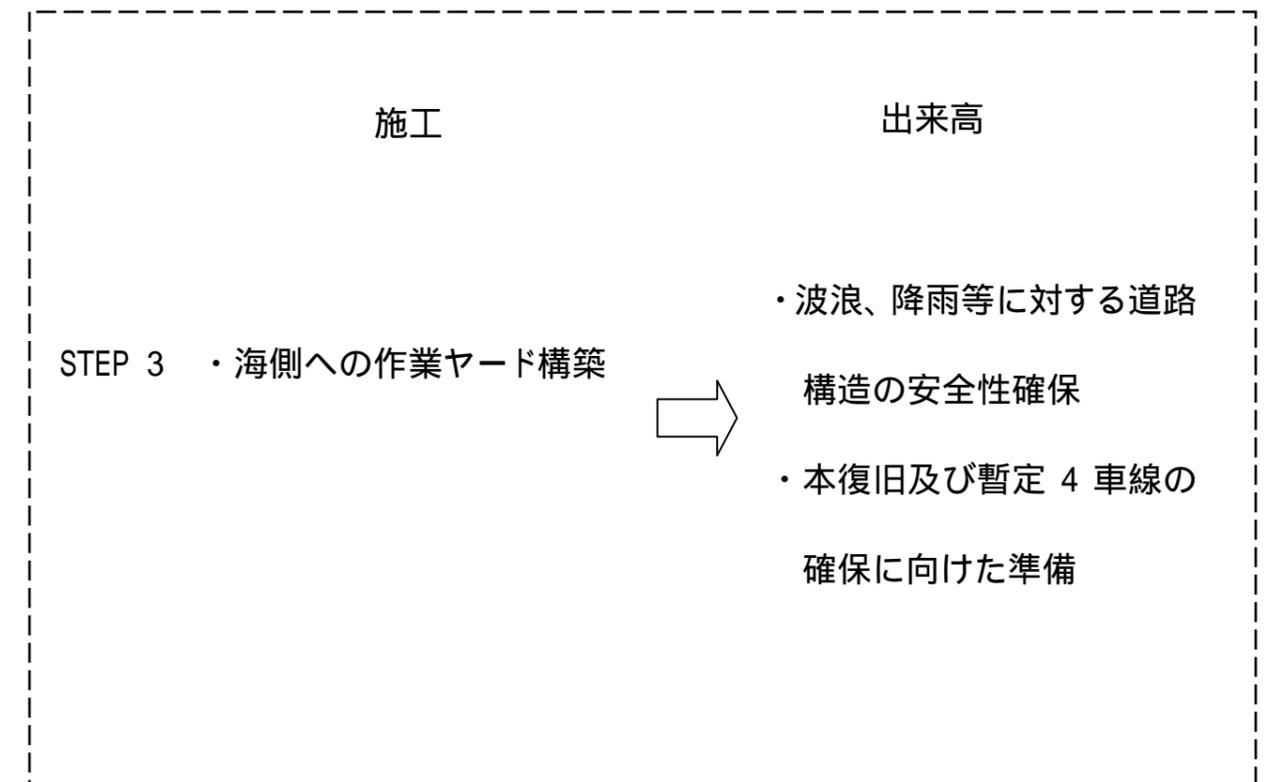
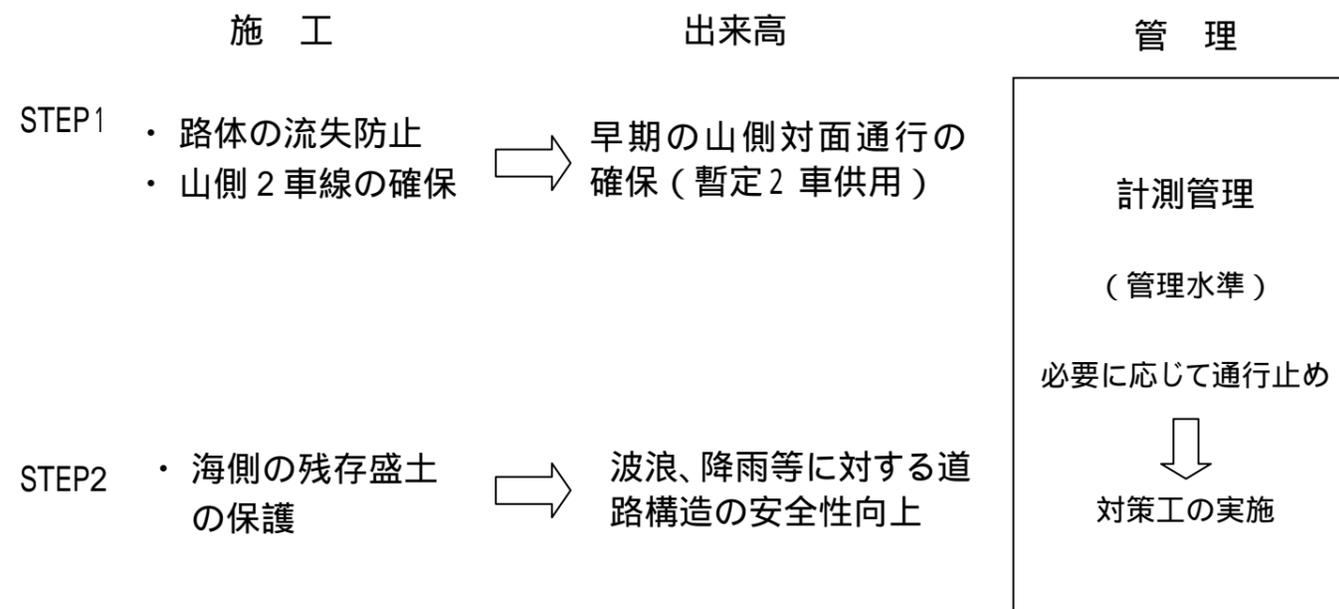
§ 2 上り線暫定供用時の応急復旧計画案

2 - 1 応急復旧計画基本方針

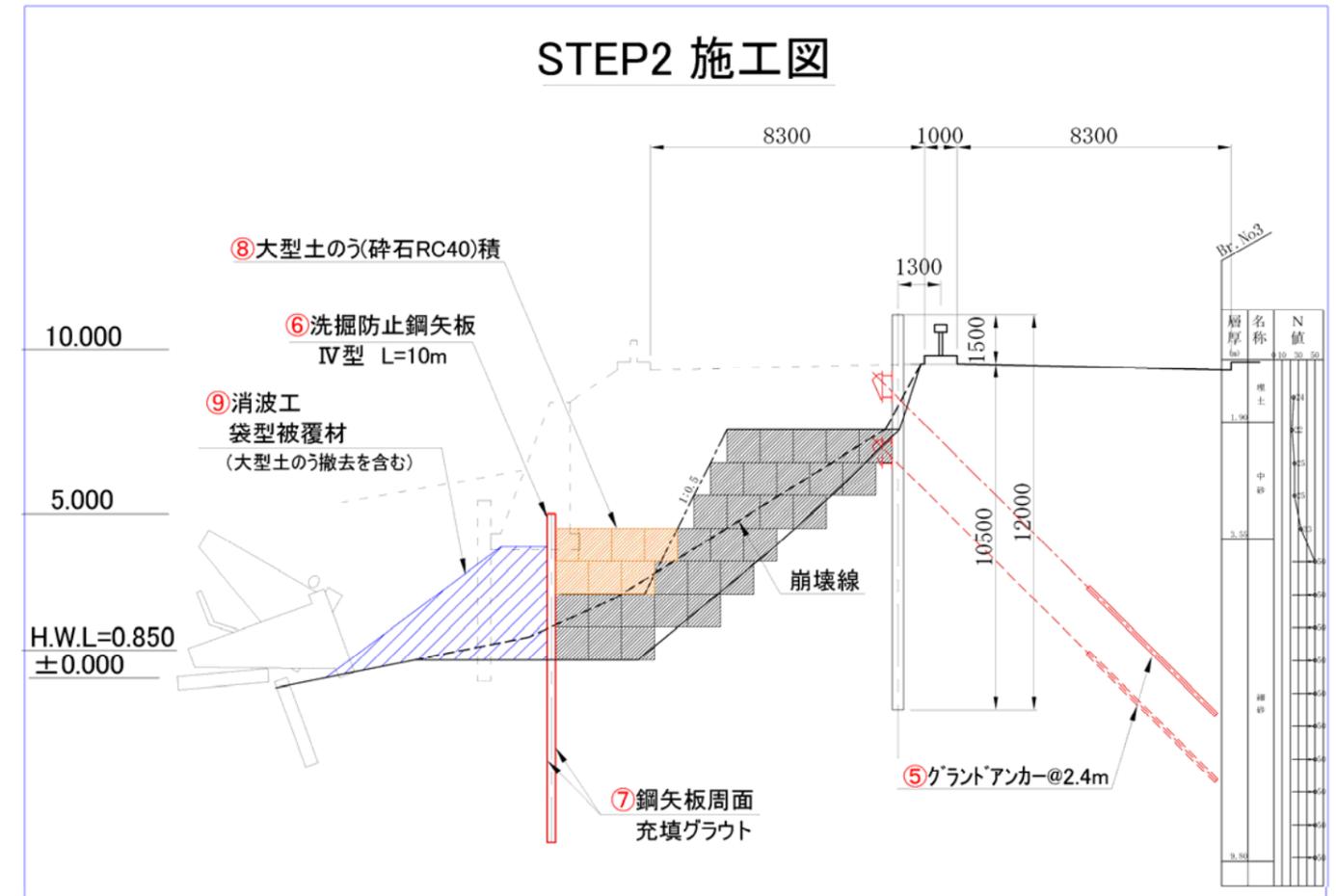
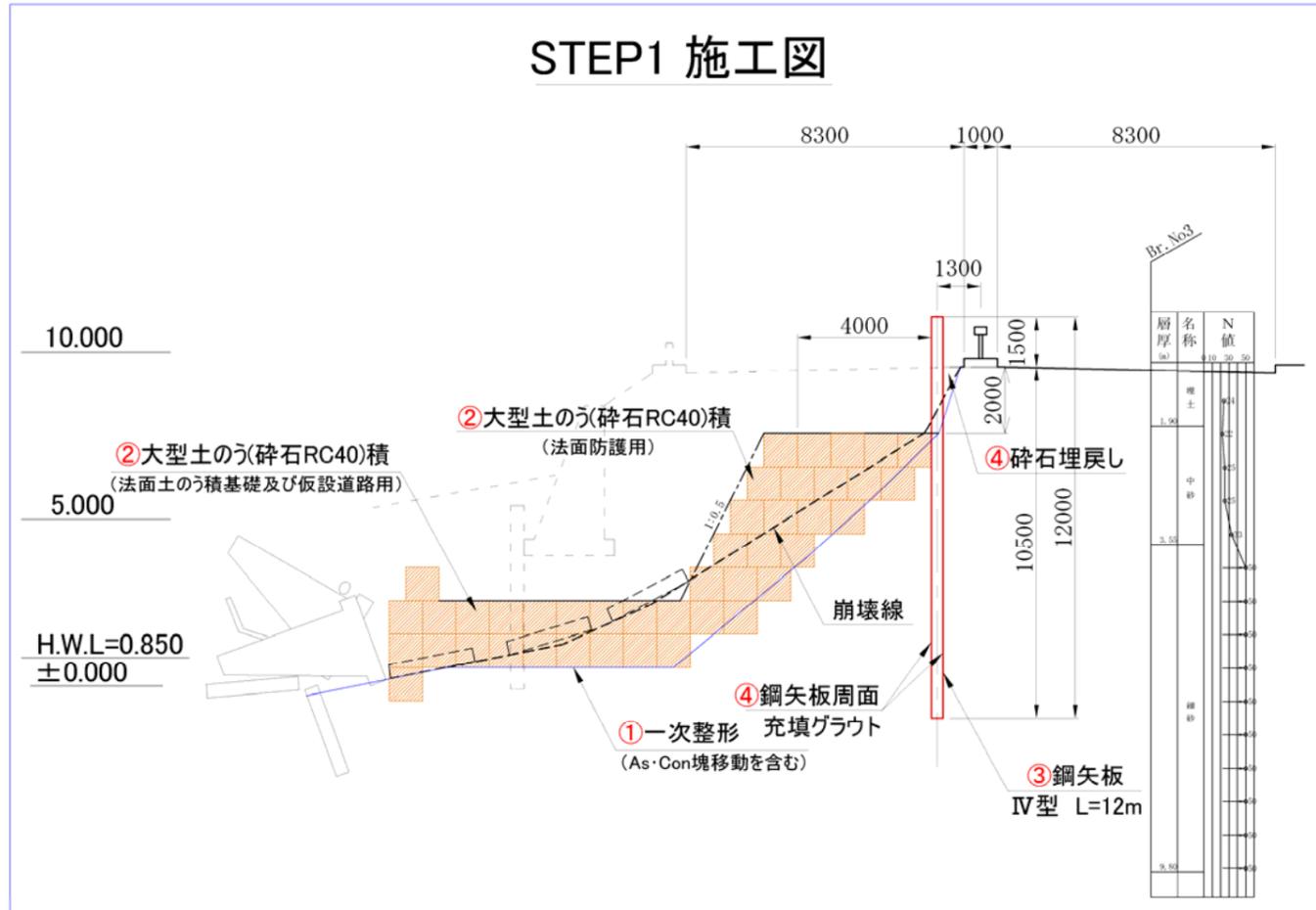
基本方針

道路利用者の安全性の確保を第一優先とし、出来る限り早期に交通解放を行う。このため、段階的な応急復旧と道路構造の安全監視を適切に組み合わせて、安全性の確保と早期交通解放の実現を図る。

暫定2車線解放までの流れ



2 - 2 被災タイプ A



[STEP 1 施工順序]

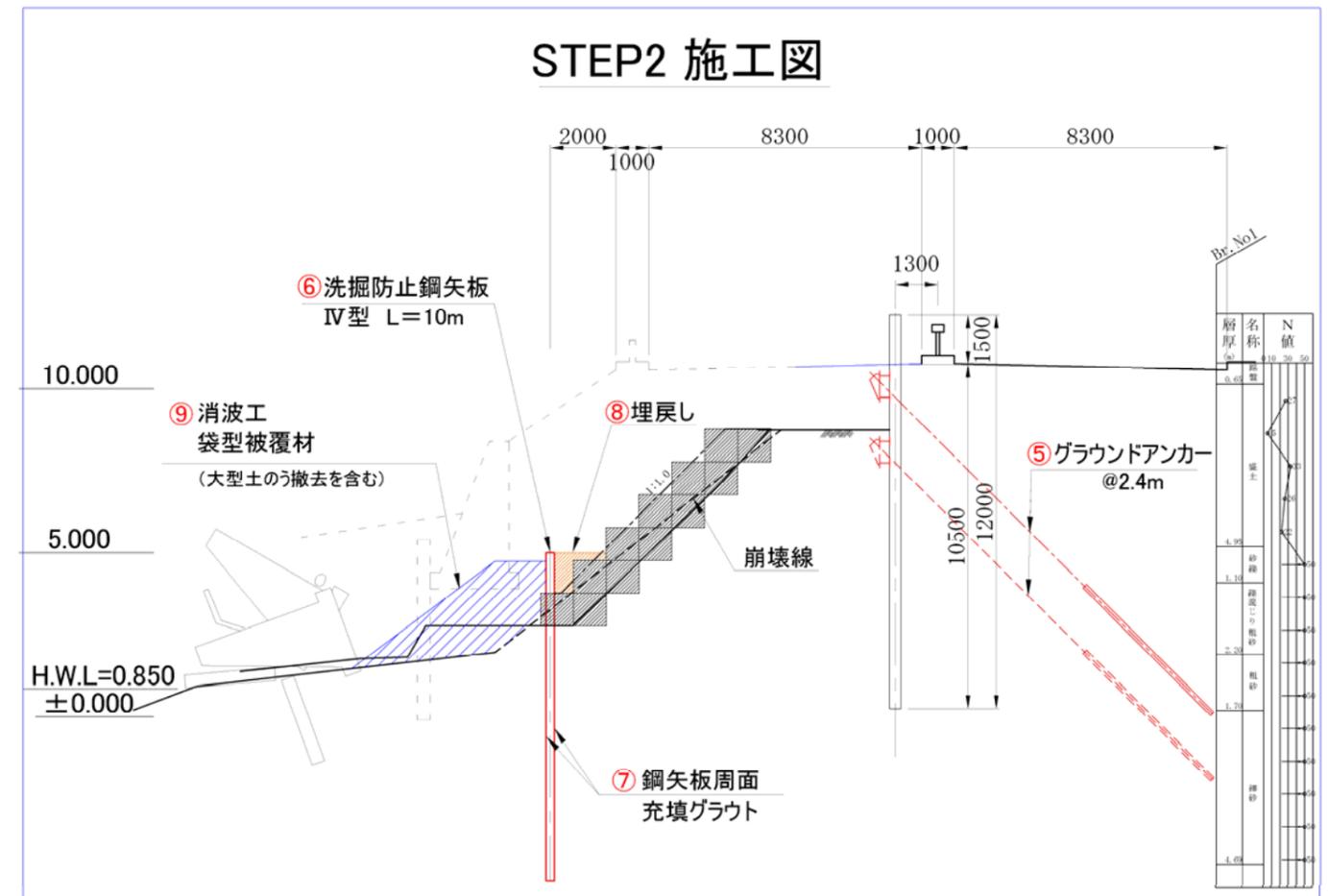
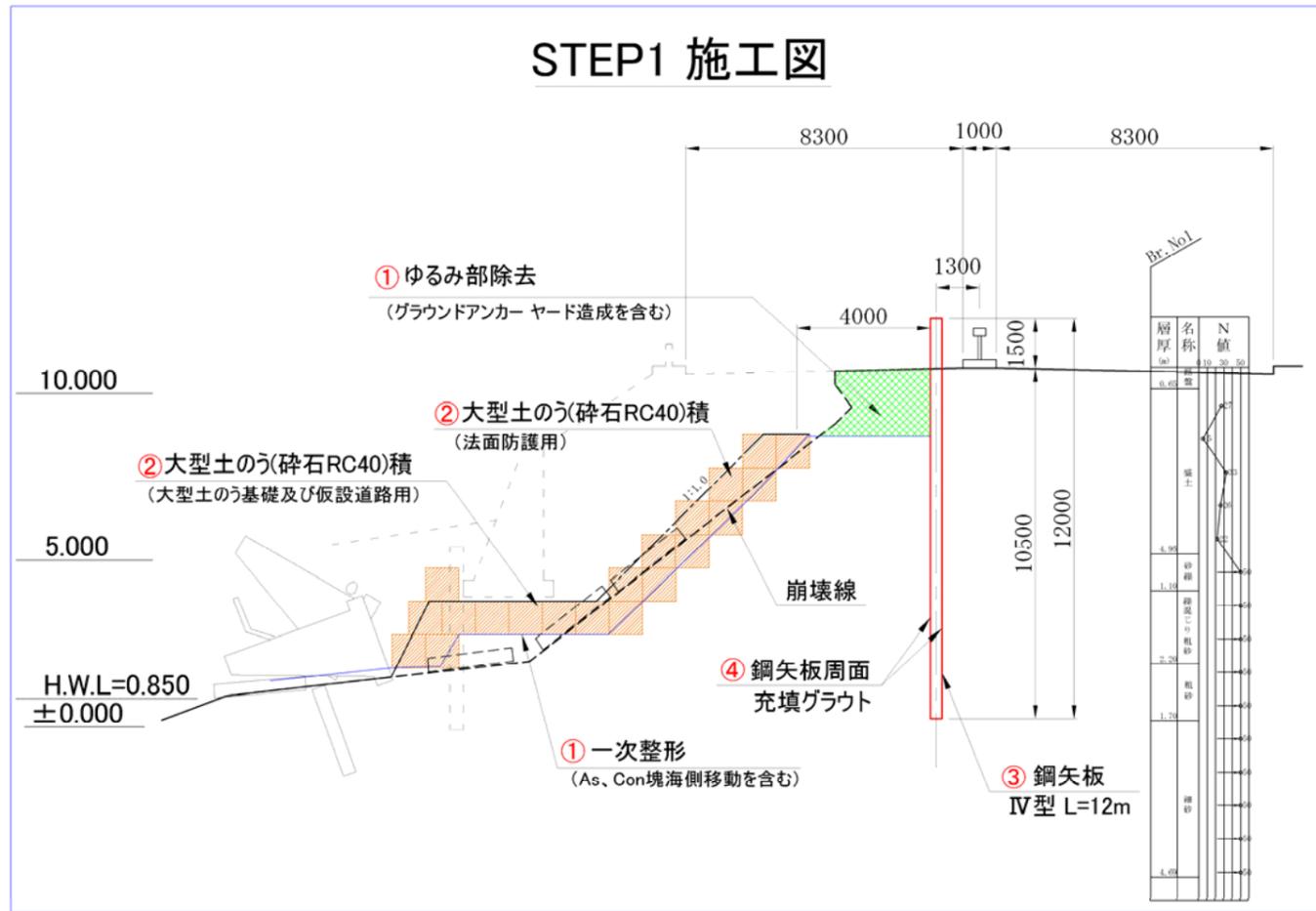
- 地盤整形 (崩壊斜面の安定化および土のう設置を容易にする)
- 大型土のう設置 (斜面の安定対策)
- 鋼矢板打設 (上り線暫定2車線供用時の仮設土留め壁)
- 碎石埋戻し (土留め壁と背面地盤との空隙充填) および鋼矢板周面充填グラウト

[STEP 2 施工順序]

- STEP 2 - 1
- グラウンドアンカー設置 (仮設土留め壁の安全性向上)
- STEP 2 - 2
- 洗掘防止用鋼矢板打設 (土留め壁前面の洗掘防止)
- 鋼矢板周面グラウト充填 (土留め壁と地山の空隙充填)
- 追加大型土のう設置 (斜面の安定化)
- 消波工設置 (洗掘防止用鋼矢板の前面洗掘防止)

図-2.1 被災タイプ A 復旧計画図

2 - 3 被災タイプB



[STEP 1 施工順序]

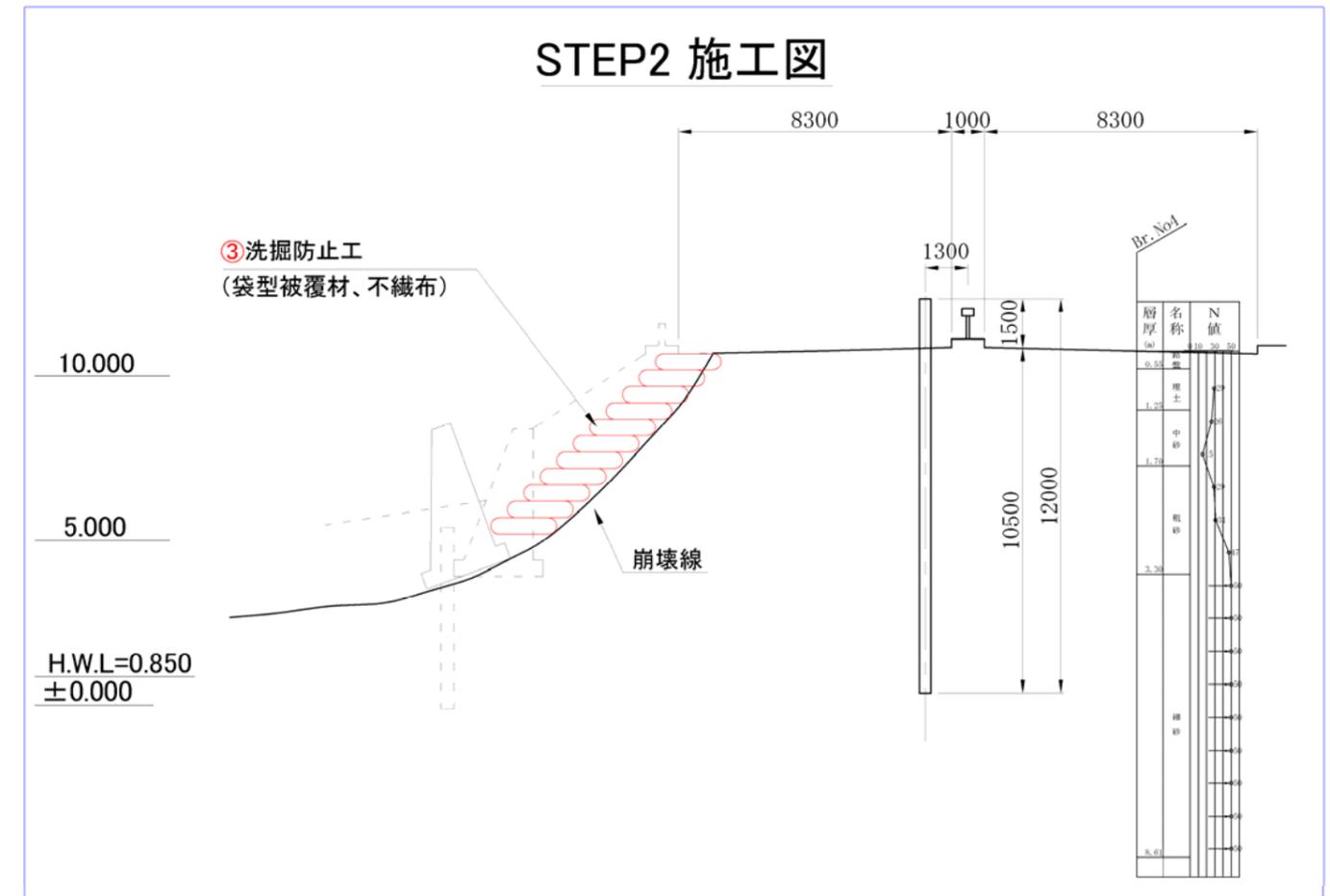
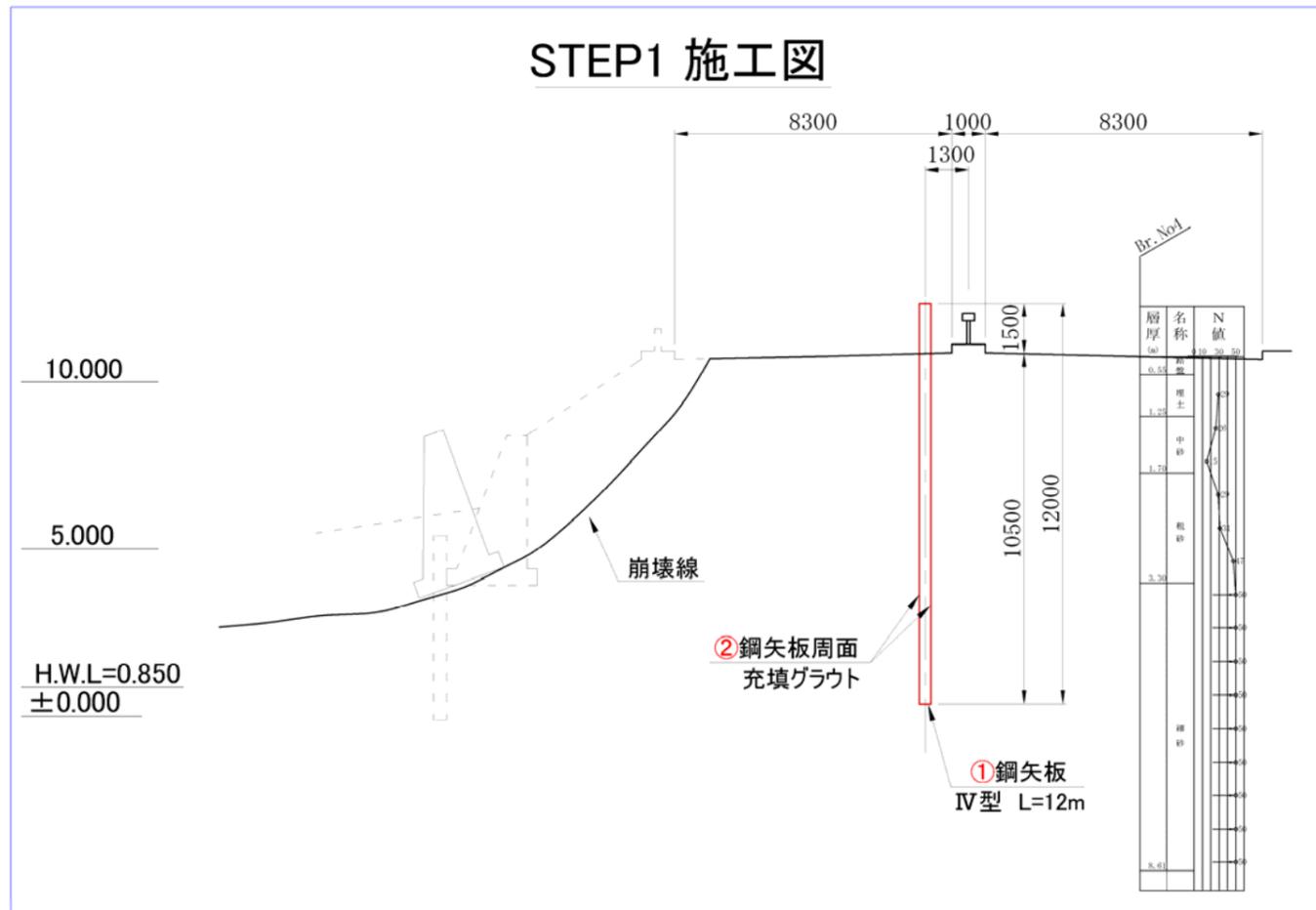
- 地盤整形 (崩壊斜面の安定化および土のう設置を容易にする)
- およびゆるみ部除去
- 大型土のう設置 (斜面の安定対策)
- 鋼矢板打設 (上り線暫定 2 車線供用時の仮設土留め壁)
- 鋼矢板周面グラウト充填 (土留め壁と地山の空隙充填)

[STEP 2 施工順序]

- STEP 2-1 ↑
- STEP 2-2 ↓
- グラウンドアンカー設置 (仮設土留め壁の安全性向上のため)
- 洗掘防止用鋼矢板打設 (土留め壁前面の洗掘防止)
- 鋼矢板周面グラウト充填 (土留め壁と地山の空隙充填)
- 土留め壁背面埋戻し
- 消波工設置 (洗掘防止用鋼矢板の前面洗掘防止)

図-2.2 被災タイプB 復旧計画図

2 - 5 被災タイプD



[STEP 1 施工順序]

鋼矢板打設 (上り線暫定 2 車線供用時の仮設土留め壁)

鋼矢板周面グラウト充填 (土留め壁と地山の空隙充填)

[STEP 2 施工順序]

洗掘防止工 (斜面の安定化)

図-2.4 被災タイプD 復旧計画図